

I. はじめに

ICT 技術が社会を変えていることは疑いない。ICT 技術は機械技術、電子技術を利用することによって労働生産性を高めることのできなかった部門の生産性の向上を目指すものであるが、教育はまさにその対象とされるべき部門である。eLearning は企業教育においては既に大きな成果を収めているが、それに対し大学教育ではさまざまなアプローチが eLearning に対してなされているにも拘わらず、およそ成功を収めているとは言い難い。これは大学教育の持つ多様性（対象分野、科目の種類、運営の方式、受講者の特質およびそのニーズ）に由来するものと考えられる。

このことから、大学教育における eLearning コンテンツ作成には講義担当者の意向を的確に反映させられる方法が必要であることが分かる。そのためには低費用で操作性の容易な eLearning コンテンツの作成方法の確立が求められている。また、コンテンツを運用するためには情報インフラと位置づけるべき LMS(Learning Management System) を稼働させることは必須である。本研究ではこれらの問題に具体的な答えを用意することを目指した。

II. 目的

主に、以下の3つの目的をおいた。

- 1) 低費用で効率的に eLearning コンテンツを作成する方法論を確立すること。
- 2) eLearning コンテンツを運用するための低費用で使い易い Learning Management System を選定すること。
- 3) 各教員が容易に低費用で eLearning コンテンツを作成する方法論を確立すること。なお、PC スキルは通常業務のレベルの範囲内と仮定する。

III. 研究の経過

講義ノートの作成は大学の教員の当然の仕事である。配布資料を作成することもまた同様である。以前は講義用スライドを作成する大学教員は少数であったが、PowerPoint が一般化した結果、スライドを講義で使用するケースは少なくない。こういった作業を第三者に委ねた場合、十分な打ち合わせを事前に行っておかなければ万足の行く教材を作成することはできない。また、逆に教材を作成することによって講義のアイデアが生まれたという経験はありふれたものであろう。

上で概観したように、教材は講義担当者が作成することが望ましい。しかし、業者などに外注されることが極めて多い教材がある。それが eLearning コンテンツである。その理由は、高性能な PC、高価なソフトウェア、高度な技術が必要であったからである。しかし、現在で

eLearning コンテンツ作成のための
セミナープログラムの開発について

山田真司¹⁾

1) 青森県立保健大学健康科学部

Key Words : ① eLearning ② コンテンツ作成 ③ LMS

はPCの機能は標準的なもので十分であるし、ソフトもWindowsに付属している程度のものであれば不足はない。技術にしても、Office系ソフトが使いこなせるレベルで十分である。

これらのことを考慮し、適当なソフトウェアを選択するとともに、作成可能なコンテンツを構想し、セミナープログラムをデザインし、教材を開発した。

さらに、さまざまなフリーソフトによるLMSの中から、本学の状況に最も相応しいものを比較検討した。

IV. 成果

所要時間1.5時間のセミナープログラムとセミナーテキストを開発した。これを用いて2008年12月に青森県立保健大学内において教員対象のeLearningコンテンツ作成セミナーを実施した。

V. 考察

このセミナーにおいて、受講者はセミナー時間内でコンテンツ作成の方法をほぼ習得した。受講者はフリーのオーサリングソフトの使用経験はなかったが、十分に使いこなすことができている。また、eLearningコンテンツ制作に対し意欲を持ったように思われる。

今回のセミナーに加えて、講義のビデオ撮影、LMS操作に関してそれぞれ1回1.5時間程度のセミナーを行うことで、教員向けのeLearningスキル習得のためのセミナーは完成するものと思われる。

VI. 今後の課題

- 1) LMSを本格的に稼働させ、eLearningインフラを構築する。
- 2) 今回のeLearningセミナープログラムはコンテンツ作成であったが、ビデオ撮影およびLMS使用のセミナープログラムを開発し、eLearningスキルセミナーとして完結したものとする。